



鎌田篤司
市政クラブ

近隣市町との連携強化について

問 近隣市町との連携強化に対する市長の考え方を伺う。

答 第五次蒲郡市総合計画の将来都市像「豊かな自然・一人ひとりが輝き・つながりあうまち」にある「つながり」を今年のキーワードとしてしている。近隣市町と「つながりあう」ことで、防災・産業・文化・スポーツなど様々な分野の連携をさらに深めたい。

SGグランプリレースについて

問 SGグランプリレースの誘致に向けて、施設面での整備状況を伺う。

答 令和4年度に競技エリアの整備棟及びボート庫を含めた一体整備が完了する。また、



ボートレース蒲郡

グランプリレースには60人の選手が出場するが、選手宿舎も収容可能となっている。

新型コロナウイルス感染症への対応

問 新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行が危惧される中、市民病院の年末年始の対応を伺う。

答 年末年始の職員の体制について、発熱者の増加も考えられるため、日勤の看護師一名を増員し、救急外来及び発熱外来を充実する。また、新型コロナウイルス感染症患者の経口抗ウイルス薬の「ゾコーバ」は、年内に供給される見込みである。



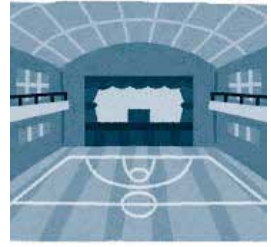
鈴木貴晶
自由クラブ

学校生活における環境の改善

問 子どもの健全育成にスポーツは欠かせないが、学校体育施設開放では練習の成果を発揮できる対外試合が制限されている状況である。令和4年6月定例会で対外試合ができるように求め、見直すとの答弁があったが、その後の検討状況は。

答 対外試合の実施について、各小中学校の意見を集約し、制度設計を進めている。一部駐車場の確保ができない等の学校があり、全小中学校での実施は難しいが、早ければ5年度から対外試合が実施できるように、規則改正等も含め、準備を進めている。

問 3年12月定例会で、学校からの連絡等のデジタル化に向けた取組



について質問し、5年度を目標に整備できるよう準備を進めるとの回答を得たが、現在の進捗状況は。

答 5年度中に、全小中学校への現行の出欠席システムを導入し、保護者及び教職員もデジタル対応に慣れる期間を取る必要があると考えている。また、アプリの導入に向けては学校に必要な機能やその運用方法等の検討を重ね、最適なものを取捨選択していく必要がある。児童生徒や保護者、教職員にとって有効で、無理のない導入を意識し、6年度中の実現を目指して、調査、研究を進める。



喚田孝博
市政クラブ

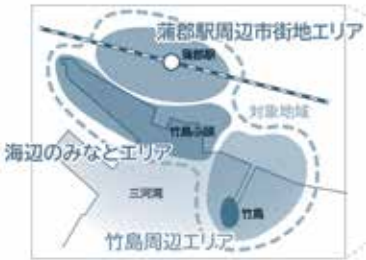
東港地区のまちづくりについて

問 ビジョン策定後の取組とその評価は。

答 これまでに3回のワークショップを開催した。「公民連携のまちづくり」を進める上で「まちを育てる人」としての市民同士がつながりあうきっかけができ始めている一方で、もっと多くの市民に知ってもらう関わってもらうことが必要と考えている。

問 今後どのように進めていくのか。

答 令和5年度からは、どのような土地利用をしたいか具体的に決めるワークショップや社会実験等を行い、民間資金を活用した土地利用の可能性調査等による実現性のある事業スキームの検討を行い、土地利用計画の作成を



東港地区（同まちづくりビジョン概要版より）

進めていきたい。

学校教育について

問 特別支援学校設置についての考えは。

答 特別支援学校の小中学校を現存する小学校の改築時に、市立で併設し、高等部は市内県立高校内に分教室としての設置を県に要望していく考えである。

問 不登校児童生徒が増えている現状を踏まえ、要因、対応を考える上で保護者へのアンケート調査の実施としてはどうか。

答 支援をしていく上で必要となれば、関係機関とも相談して慎重に対応を考えたい。